令和７年度（2025年度）第１回

八王子市総合教育会議議事録

日　時　　令和７年（2025年）５月21日（水）
場　所　　議会棟４階第３・第４委員会室

第１回八王子市総合教育会議次第

1.　日　　時　　令和７年（2025 年）５月 21 日（水）

2.　場　　所　　議会棟４階第３・第４委員会室

3.　議　　題

（1）今後を見据えた八王子市の学校教育

（2）八王子市乳幼児期の教育・保育に関する方針について（報告）

八王子市総合教育会議

構成員（6 名）

八王子市長	初　宿　和　夫
八王子市教育委員会　教育長	安　間　英　潮
八王子市教育委員会　教育委員	保　坂　暁　子
八王子市教育委員会　教育委員	伊　東　　哲
八王子市教育委員会　教育委員	守　屋　香　里
八王子市教育委員会　教育委員	田　中　雅　美

説明員

総合経営部長	立　花　　等
子ども家庭部長	古　川　由美子
学校教育部長	松　土　和　広
学校教育部指導担当部長	上　野　和　広
学校教育部学校施設整備担当部長	八　木　忠　史
生涯学習スポーツ部長	佐　藤　晴　久
契約資産部長	小　林　順　一

事務局

総合経営部計画調整担当課長	三　浦　清　志
学校教育部教育総務課長	武　井　博　英

【午後1時30分開会】

○立花総合経営部長　　ただいまから、令和7年度第1回八王子市総合教育会議を開催いたします。本日の進行は、八王子市総合教育会議運営要綱第3条第3項の規定に基づき、総合経営部長の立花が務めます。よろしくお願いいたします。

本日は、市長と教育長ほか、2名以上の教育委員の出席がございますので、八王子市総合教育会議運営要綱第3条第1項の規定に基づき、本日の会議が成立することを確認しました。

○立花総合経営部長　　それでは、会議に先立ちまして初宿市長から御挨拶をお願いします。

○初宿市長　　日頃からお世話になっております。八王子市長の初宿和夫です。

今日は今年度1回目の総合教育会議ということで、「今後を見据えた八王子市の学校教育」、「八王子市乳幼児期の教育・保育に関する方針について」を議題にさせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

昨日、八王子市内の子どもたち、特に第三小学校にお力添えをいただき、八王子駅南口の医療刑務所跡地に整備を進めている場所の愛称を、「桑都の杜」とお披露目いたしました。「杜」の字は、山などにある自然の森を指すだけでなく、人々が協力しながら育てた自然という意味合いもあり、素晴らしい名前です。最終的に、八王子の子どもたちが、この名前が良いと選び、決まりました。ほかにもいろいろな候補があった中で、子どもたちが「桑都の杜」という名前を選んだことは、驚きとともに感動しました。

八王子医療刑務所は、約130年前の明治28年からあの場所にありました。それが19世紀、20世紀、21世紀と世紀を超え、子どもたちがこの先の100年を見据えて、「桑都の杜」という愛称を選びました。この新しい施設については、事前にコンセプトをお伝えしております。それは、公園だけではなく、図書館や博物館、歴史など、公園以外にも機能を持ち、歴史や文化を身近に感じられるということ。さらに、自然があり、いざという時には避難所になる機能を持った公園があること。それを子どもたちが「桑都の杜」と名付けてくれたことは、本当に感謝したいです。これも日頃から、委員の皆様方をはじめ、学校の先生方が、子どもたちを大切に育ててくださっている思いが現れているものだと思っています。改めて感謝申し上げます。

話が長くなりましたが、今日は限られた時間の中で、これからの教育について話をさせていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○立花総合経営部長　ありがとうございます。続きまして、安間教育長お願いいたします。

○安間教育長　　令和７年度第１回総合教育会議にあたり私も一言御挨拶申し上げます。

先日、市長より、変化に対して極度に適応した組織は、逆説的に変化に対応できなくなるという話がありました。私は、教育行政、特に学校教育がまさにそうであると思います。日本の学校教育は戦後の急激な変化に対応したと思っていますが、対応しすぎてしまい、かえって構造的にも学習の例規が捨てきれず、膠着している状態だと思います。

こういう時だからこそ、我々が経験した事のない未来を子どもたちが生きるということを前提に、自分たちでできる限り、抜本的に見直さなければいけません。それは新しいことを進めるというだけの話でなく、まずは目的と目標を見直し、今、見直すべきことは何かなのかをもう一度しっかり考える必要があると思います。本日の議題は２つともそういうことだと思っています。

我々も 5 人一丸となって未来の子どもたちのために何ができるのかしっかりと考えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いします。

○立花総合経営部長　　ありがとうございます。なお、４月１日付の人事異動により、説明員及び事務局に変更がございました。お手元に配付している名簿にて紹介に代えさせていただきます。

それでは、資料の確認をお願いします。本日の資料は、端末で御覧いただきます。画面には、PDF ファイルで、本日の次第を表示しております。画面上部には、内容を切り替えるタブが、左側から、「次第」、「資料 1-1」「資料 1-2」「資料１-3」「資料 2-1」「資料 2-2」と表示されておりますでしょうか。なお、資料 1-2 のみ、併せて紙資料をお手元に配付しております。よろしいでしょうか。

また、本日は会議の最中に職員が会議の様子を写真撮影しますので、御了承願います。

それでは本日の議題に入ります。議題 1、「今後を見据えた八王子市の学校教育」です。端末は、資料 1-1 を表示してください。よろしいでしょうか。

それでは、まずは指導担当部長より説明をお願いします。

○上野指導担当部長　　資料 1-1 に基づき説明

○松土学校教育部長　　資料 1-1 に基づき説明

○立花総合経営部長　　ありがとうございます。なお、参考資料として、資料 1-3 として公共施設マネジメントの視点からの資料も用意しておりますが、説明は省略いたします。

それでは、教育委員の皆様から、取組の推進について御意見等を頂戴したいと思います。どなたか、ご発言いただける委員はいらっしゃいますでしょうか。

それでは、伊東委員、お願いいたします。

○伊東委員　　私からは、今後を見据えた八王子市の学校教育について、ただいまの御説明を受けて、私見を述べさせていただきます。

キャリア教育についてのお話がございましたが、小学校・中学校においては、現行の平成 29 年学習指導要領から、キャリア教育という教育活動が位置付けられました。キャリア教育は、基礎的・汎用的能力として、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、キャリアプランニング能力、解決対応能力といった資質能力を高めることが示されています。本市ではいち早く取組を行い、その表れとしてキャリアパスポートを作りました。多摩地区で一番早く作ったと自負しているところです。

今回の提案につきましては、地域コミュニティの中で、子どもたちがこれからの社会の作り手として、地域の中で生きる力を習得していくことや、地域の中で自己実現を図っていくことが示されておりますが、これはまさに、実践的なキャリア教育、或いは経営につながるキャリア教育へとつながっていきます。また先程、その方法論として STEAM 教育の話がありましたが、こういったものも非常に親和性があると思います。

近年、文部科学省を含めて、キャリア教育をさらにアップグレードさせる考え方として、アントレプレナーシップ教育といったものと関連させることがあります。アントレプレナーシップ教育というのは、起業家教育とも言います。新潟県などでも行われていますが、自ら課題を見つける、実社会・地域とつながる、失敗体験から学ぶ、社会に新たな価値を提供するといった取組が行われております。こうした考え方は、アメリカをはじめとした欧米諸国などでは小学校から取り入れられています。こうした経営教育や、STEAM 教育の取組を行っていくことは、創造性を育成すること、実践的な課題解決能力の形成、実際の体験活動の充実、ハンズオン型学習と言われるような学習方法、或いは教科等横断的な学習を行うということであり、非常に今後の教育活動と関連があ

る取組だと思います。このような教育を行っていくためには、特別活動でも言われていますが、人間関係形成や社会参加、自己実現といった力を育成する学習活動が必要です。

これらのことを考えると、学校における学習集団の規模については、文部科学省でもいろいろな学習集団の考え方を示していますが、私はある程度一定の学習集団にて、子どもたちの量的な人数を確保していくことが非常に重要ではないかと思います。そういう意味では、学校再編や統廃合といったことと関連させながら取り組んでいくことが必要だと思っております。また、合わせてこの機会にお話させていただきますが、キャリア教育やこれからの STEAM 教育を効果的な教育活動として行っていくためには、やはり、実際に体験的な活動がしやすい教育環境を整備していくことが重要ではないかと思います。先ほどの話の中では農業体験などの例示がありました。今よりももっと、そういった体験活動がしやすい教育環境を意図的に作っていくという考え方も重要ではないかと思います。

これからの学校教育を見据えていく上で、やはり理念と、方法論としての環境整備をセットで考えていくことが必要ではないかと思っております。私からは以上です。

○立花総合経営部長　　ありがとうございます。ほかに、御発言いただける委員はいらっしゃいますでしょうか。

それでは、守屋委員、お願いいたします。

○守屋委員　　御説明ありがとうございました。私からは、今後を見据えた八王子市の学校教育ということで、課題に感じていることと期待したいことをお話しさせていただきます。

これまで、学校教育については、細かいところに目を配って取り組んできたと思います。伊東委員からも話にあったキャリアパスポートや、以前から掲げている「地域の子どもは地域で育てる」ということ、「いえいく」が八王子にはあります。企業や大学との連携も何年も前から取り組んでおり、職場体験学習にも取り組んでいます。これからもその方向性は変わらないと思っています。そして、八王子では、「地域」という言葉がいろいろなところで出ており、取組も多種多様です。市域が広いので、場所が違えば文化も違うという、一筋縄ではいかないところは常々感じております。子どもも大人もですが、人は人の中で育ちます。同年代だけではなく、異なる年齢の方、そして親だけではなく、地域の方などのさまざまな大人と実際に関わることで、人間が形成されるのだと日頃から思っているところです。そういった中で、地域の資源、産業に取り組みな

がら、地域の課題を見つけていくということはとても良いことだと感じています。

しかし、地域に関わる人間も高齢化が進んできています。例えば、ボランティア活動に参加する機会はとても少なくなっています。また、定年が60歳以上となり、60代70代でも元気に働く方が多くなっているので、子どもの教育に携わってくれる方が少なくなり、頭打ちになっていると考えています。また、八王子の資源の1つでもある大学生は、とてもニーズがありますが、交通の便によって学生が集まる・集まらないと差があるので、どこの学校でもそう簡単に人手を集められるとは限りません。こういったところにはしっかりと資金を投入し、活動がしやすいようにしてもらえるとありがたいと思います。

また、STEAM教育重点開発校については、全ての中学校に広げていくことが必要です。何事もいっぺんにはできないので、順番に進めていくことになりますが、できる限り差が出ないように進めてもらえるとありがたいです。

そして御説明の後半にあった、学校施設の老朽化や少人数の話については、止まらないことであるということは、保護者もよく分かっています。ここ数年進めてきた部活動改革においても、自分たちが求めていることが、ある程度の適正規模がないとできないということも重々感じてきているところです。質を求めるうえでは、ある程度の量がないと致し方ないということも、私たち保護者も学んできたと思っています。

今、地域には、いろいろなことが求められています。中学校区単位で動いてはいるものの、統廃合や再編は避けては通れない局面になっていると思います。地域のメンバーにとって、それを受け入れることはなかなか難しいところですが、八王子版の基準を早めに考えて提示し、将来の子どもたちのためだと思って進めていただけたら良いだろうと思います。ありがとうございます。

○立花総合経営部長　　ありがとうございます。それでは、安間教育長に、総括しての御意見を伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。

○安間教育長　　本市では令和4年度から、小中一貫教育で子どもたちを見ていこう、学校施設は有効活用していこう、ということでいろいろな方針を立てていますが、私はいよいよ最終段階だと思っています。八王子らしい教育を受けることの完成形がこの中身ではないかと思います。目的は、八王子にいる子どもたち全員が、義務教育の段階で、コミュニティの中で生きていく力をつけること。目標は、自分が育った地域の強みを子どもたちが身につけて、自分のキャリアに就くこと。本市には、農業も、工業地帯も、

ニュータウンも、商業地域もあります。海がないために漁業関係がないくらいで、ほとんど全てが揃っています。そして全ての地域に学校があり、子どもたちがいるので、一律でどうこうするのではなく、その地域に即した力を身につけられる教育を展開していくことが、八王子のためではないかと思います。文部科学省が学習指導要領で言うところのキャリア教育は、日本全国どこでも成り立つように作っているものであり、そこから踏み込んで八王子独自のものを考えた時に、実践的であると言えるのは、八王子にとって実践的であるということだと思います。

例として農業を挙げます。全国レベルで一般的に行っている農業体験は、農家さんが作ってくれた苗を皆で集まって植えるだけです。その後、収穫時期になったら連絡をもらって刈りに行き、しばらく経つと食材となって届き、給食などに出て、食べるだけです。私はやはり、加住地区に住んでいる子が加住地区の名物の野菜を知らないで良いのだろうかと思います。場合によっては、科学的手法を取り入れて、発展させることがあっても良いでしょう。仮に農家にならなかったとしても、ベランダでトマトを軽く栽培できるような子に育ち、どこの子なのかと尋ねられた時に八王子です、と答えられる方がふさわしいのではないかと思います。

また、ものづくりは、我々も知らないようなすごい技術を持っている中小企業が八王子市内にはたくさんあります。全世界的に有名な接着剤を作っている企業も八王子にあります。その接着剤を使って、身近にあるこういった問題が解決できるんではないかというような、子どもたちの発展的な学習にもつながってくるのではないかと夢を描いているところです。

先ほど申し上げたとおり、自らが育った地域の強みを子どもたちが身につけるような継続的なキャリア教育にしたいと思っています。職業調べなどのレベルの研究ではなく、実践的なキャリア教育を進めていくことで、八王子の教育体系が確立するのではないかと考え、進めていきたいと思っています。とはいえ、まずはその環境づくりが大事なところです。教育委員会から学校に対してやりましょうと言うだけでできることではありません。本日は、契約資産部長にも来ていただいていますので、是非お力をお借りしたいですし、本日はいらっしゃりませんが、産業振興部長とも連携して、そういった取組をやってくれるような方々を紹介していただき、学校とつなぎたいです。地元の方々や、数多くある大学の工学的な知識を生かして取組ができれば、八王子らしいはちおうじっ子が育っていくと夢を描いております。子どもたちのより良い環境のために、進めていく御協力いただけたらと思います。これが、現時点で考えている八王子らしい教育の完成形だろうと思っておりますので、是非、御意見があれば伺いたいです。

以上です。

○立花総合経営部長　　ありがとうございます。それでは、初宿市長、いかがでしょうか。

○初宿市長　　ありがとうございます。

私の手元にあるこちらの資料は、私が、今年八王子市役所に入庁した職員への研修で使ったものです。今の21～22歳の子たちがどんな思いを持って会社に入るのかが分からなかったため、リクルートマネージメントソリューションが学生に問うた、「新入社員が仕事で重視すること」のデータを活用しました。こちらは報道発表されているものです。一番多い回答が「成長」、その次が「貢献」、3 番目が、「専門性」となっています。その下に「仲間」、「責任」、「やりがい」、「達成」と続きます。データを受けて、今の義務教育、中等教育、高等教育を学んだ学生たちは、自らの成長管理、キャリアの中で、自分の成長を感じられるような働き方を望んでいるのだと感じました。講義については、これを前提に話を組み立てていきました。

新人研修の場だったので、ナイチンゲールの「才能は長い努力の賜物である。」という言葉を紹介しました。あなた方もこれから一生懸命にキャリアを積み上げていくと、それがきっと才能になっていくということを伝えました。

伊東委員からはキャリア教育、アントレプレナーシップの話、守屋委員からは「いえいく」や、八王子市の基準を示してほしいという話がありました。そういった中で、私たちはどういった形で関わっていけば良いのか。安間教育長から、自ら育った地域である八王子の強みをキャリア教育の中で学ぶと聞き、なるほどと思った次第です。子どもたちが八王子のフィールドで体験・経験を積む、育った八王子にある産業や企業を知ることにより、今後の子どもたちのキャリア教育の中で、強みを生かしていく取組なのだろうと考えました。

その点から見ると、以前の総合教育会議の場でもお話したかもしれませんが、子どもたちのキャリア教育においては、八王子市内の企業との接点が少ないという課題があります。企業の皆様方から、人材確保が難しい中で、高校の子どもたち、あるいはもっと早い段階から子どもたちとの接点がほしいという声をいただいております。自分が住んでいるまちの産業、企業はどうなのか。こういった資産や財産を使ったキャリア教育を展開していければ、より素晴らしい、八王子らしいものが出来上がるのではないかと思います。先ほど、部長方の名前を挙げていただきましたが、そういった部長たちが関わるものだと改めて思った次第です。

少し話を広げますと、実は八王子の中で新たな面白い取組があります。中央大学において、私が問題提起したわけではありませんが、都心回帰により空いたキャンパスを放置しておくのはもったいないということがありました。八王子に中央大学がある価値を、八王子としても提供したい中で、何ができるかということで、令和9年度より2つの新しい教育形態ができます。1つはスポーツと健康、もう1つは農業です。都心回帰したスペースで、八王子のフィールドを使った新たな学びが実現しつつあります。大学という高等教育の場においても八王子にあるべきだとこれから示していき、それを見た八王子の子どもたちが、いわゆる初等教育の段階において八王子で暮らし、育ち、学んだメリットを感じ、生涯のキャリア教育につなげていけるようなものを提供できればと思っています。

まとまりのない話で恐縮ではございますが、お話をいただいて私も刺激を受けました。ありがとうございます。

○立花総合経営部長　　ありがとうございます。いただいた御意見に関連して、説明員から補足説明はありますか。

以上で、議題1は終了といたします。

続きまして、議題 2、「八王子市乳幼児期の教育・保育に関する方針について」の報告です。端末は、資料2-1を表示してください。よろしいでしょうか。

それでは、子ども家庭部長より説明をお願いします。

○古川子ども家庭部長　　資料2-1に基づき説明

○立花総合経営部長　　ありがとうございます。それでは、教育委員の皆様から、取組の推進について御意見等を頂戴したいと思います。保坂委員、お願いいたします。

○保坂委員　　大切な乳幼児期の教育の話ですが、その前提となるのは、安定した養育環境です。乳幼児を含め、子どもが常に安心していられる、自分が愛される存在であると無意識下に認識できるような状況にあることが前提としてあり、はじめて、立派な幼児教育・保育が成り立つと考えております。そのように考えると、子育て世帯への支援や、孤立しがちな標準と異なる家庭などの支援が非常に大切だと思います。幼児教育・保育センターやこども家庭センター、教育委員会、市長部局の各部署との連携により、赤ちゃんも子どもも安定した養育環境で安心して過ごせる体制を作ってい

くためにも、この計画における部署の連携を順調に進めてほしいと期待しています。

もう１つは、少子化で乳幼児の数が減ることは、いろいろなマイナスの要素もありますが、保育の質、教育の質を上げる大きなチャンスだと捉えられます。保育の役割や再編など、工夫されていると思いますが、幼児教育・保育センター、こども家庭センター、各幼稚園・保育園・認定こども園、教育委員会、場合によっては医療機関などの各方面との連携を進めるもとになる提案を進めることを大変期待しています。本当に、質を上げる最大のチャンスだと思っております。以上です。

○立花総合経営部長　　ありがとうございます。次に、田中委員お願いいたします。

○田中委員　　幼児教育・保育に関する意見として、少子化対策が期待に上がることは全国的に同様であると、いろいろなところから情報が入っております。恐らく、国が少子化対策として想定している以上に、進んでいるということもありますが、それに対して一行政、一地域だけで対策するのは難しいと思っています。私が八王子市に半年ほど携わってきた中では、八王子市はどうすればお父さんお母さんが生みたいと思うか、子どもを育てるための幼児期のサポートができるかということをとても考えていると感じています。例えば、以前の総合教育会議で病児保育の提案をさせていただいた時にも、既にこうした対策をしていると聞きました。私にも小さい子どもがいるので、親として安心感があると感じました。

私の子どもは今、保育園に通っています。実家も遠く、核家族化して、夫と私で育児をする中で、非常に保育園のありがたさを感じています。ラッキーなことに、通っている保育園では、いろいろな取組をしてくれています。保育園、幼稚園、認定子ども園は、管轄や体制は異なっていますが、家庭の環境や状況によって、幼稚園に行くか保育園に行くかが決まってくる中で、その時期に学べることに格差がないことが大事だと思います。私の子どもが通っている保育園は、保育に限らずいろいろな体験をさせる取組が充実していると実感しています。一方で、友人の子どもが通う保育園の話を聞くと、保育するのみという話でした。そういったところも少なくはないと聞きますが、八王子市に関しては、どこの保育園に通っても、成長期の体験ができるようになったら良いと思います。

保育園児を育てている親としての視点では、あの市にはこういう保育園や幼児施設があるという情報を知ると、移住できるチャンスではないかと考えることがあります。子育て環境はとても重要視されるので、他市より少しでも、仕事場に遠くなって

もここに行きたいと思えるような要素があることは重要なポイントだと思います。

少し話はそれますが、私たち40代後半から50代前後の世代は、就職氷河期世代と言われており、就職難をはじめ、裕福なタイミングを経験していない世代と言われています。この少子化の時代に生まれた子どもたちは、この環境を受け入れていくしかない中で、こんなことをやってくれたから八王子で幼少期を過ごせて良かった、もしくは親がここで幼少期を過ごせて良かったと言えるような、何か良いものや良い環境を与えてあげることが重要だと思います。保坂委員がおっしゃったように、こういった状況をチャンスに変えていくことが、ポイントであると感じました。

そして、先ほどの教育定例会で配布された資料と、資料2－2の最後の行の用語解説の中に、同じ文言がありました。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿)」とありますが、なかなかハードルが高いように思えます。例えば、有名小学校へ入学する前に塾に行ったとしても、これらを完全に養うのは相当ハードであるというのは、お子さんを持つ親は皆、感じることだと思います。しかし、全てがとても重要なポイントだと思うので、幼児期に限らず、子どもが成長していく中で、中学校を卒業する頃でも良いので、それがあると良いという感覚です。

長い目で見て、子どもの時にいろいろな経験をさせてあげることはすごく重要だと思っています。前年度の総合教育会議の際にもお話させていただきましたが、小さい頃にたくさん刺激を与えることが重要だと思うので、シナプスを刺激させるという意味合いでの今後の八王子の幼児期の環境と教育を期待しております。

○立花総合経営部長　　ありがとうございます。それでは、安間教育長に、総括しての御意見を伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。

○安間教育長　　改めて、就学前から学齢期の円滑な接続については、絶対にやらなければいけないことであり、常々、協力していきましょうと話しております。今回の議題1にあった学校教育の部分では、基本的なものが出来上がってきていますが、当然、その前段もつながらないといけません。しかし、冒頭の挨拶で申し上げたように、小学校教育、中学校教育とそれぞれで完全に出来上がってしまったものですから、小・中連携をするだけでも、ものすごく手間がかかりました。同じ学校同士でもそのような状況だったので、やはり保・幼・少連携にはすごく時間を使うだろうと十分理解はしています。

小・中連携をする時に一番効果があったのは、子どもの情報の交換・共有でした。

小学校の先生は、自分が手塩にかけて育てた子どもですから、こういうことに気をつけてもらえると、この子は力が発揮できるという思いを強く持っています。しかし、その情報が中学校に届かないために、中学校の先生が昔ながらの指導をしてしまい、上手くいかなくなることがありました。ここが連携のポイントで、この子はこういうふうに指導すると上手くいくと小学校から中学校へ伝わると、子どもがよくなりました。こういった実践的なところから、何とか小・中連携を始めていきました。子どもを中心に、A さんはこういった特性があり、こんな場面でこうなるといったことを情報交換していくことが、連携ができていく基本なのだろうと感じているところです。そういったことを進めていきたいと思っております。是非、よろしくお願いします。

○立花総合経営部長　　ありがとうございます。それでは、初宿市長いかがでしょうか。

○初宿市長　　保坂委員から、ピンチは最大のチャンスだという話がありましたが、まさにそのとおりだと感じた次第です。私の中で何よりも大きく印象に残ったことは、安定した養育環境をどう作っていくのかということです。この重要性は、さまざまな場面で痛感しているところです。まちの中で、子どもやその御家庭の様子を見ても感じますし、ニュースで悲しい事件を見聞きし、特に小さな子どもたちが巻き込まれるような事件を見ると、その子にとってこの養育環境はどうだったのかと心を痛めます。私が心を痛めてもどうにもならないのかもしれませんが、その子にとって安定した良い養育環境を提供できなかったのかと感じます。その重要性を改めて認識しました。質を上げる最大のチャンスという部分では、市として、それに対して何かしていかなければいけないと感じた次第です。

田中委員からは、移住の切り口から捉えられたと話がありました。その点では、選ばれる八王子にならないといけません。選ばれるというのは、移住のほかにも、企業が八王子で会社を興したり、学びで八王子が選ばれたり、就職においても八王子市役所が選ばれなくてはいけないということです。移住のチャンスのタイミングで、八王子を視野に入れてもらい、選んでもらえるような乳幼児期の保育・養育環境を提供していかなければいけないと感じています。まさにチャンスだと思った次第です。

そういった中で、安間教育長から話があった小・中連携の課題ということで、改めて思ったことは、小・中に限らず、幼・保、幼・小の連携も大事であるということです。八王子市内の幼稚園を回っていた際、子どもたちが卒園して小学校に入る時に

は、この子はこういう子だということを小学校に伝えていると教えてもらいました。また、幼稚園・保育園で担任をされた先生方は、その子が1年生としてどんな風に生活しているのかが気になるため、運動会などの場を見に行くこともあると聞き、八王子はそういった連携や情報交換がしっかりとできているのだと思いました。幼・小、小・中の連携は、八王子の大切な財産の1つであり、この連携が切れないように取組をさらに太いものにしていかなければならないと思った次第です。

乳幼児期の子どもたちの環境整備として何をすればよいのか、悩み、試行錯誤しつつ、他の自治体の取組例も参考にしながらやっています。成功する自治体はもっとすごいことを行っているため、どう取り組んでいくべきなのかと考えております。八王子市の中では、日々の自治体のニュースを共有し、その対策を市職員全員が共有できるようにしています。その中で何か気づきがあり、市の取組の課題解決につなげられることを目指していく仕組みになっています。実際の市の施策として、何か目に見える形で示せればと思っております。これからの八王子、東京がどうか問われる、最初のステップの段階だと思っております。いただいた御意見は、これからも勉強して、しっかりと市の施策の中に反映させていきたいと思っております。ありがとうございます。

○立花総合経営部長　　ありがとうございます。御意見を受けて、説明員から補足説明はありますか。

以上で、議題2は終了といたします。

本日予定された議題は以上となります。次回の総合教育会議は、令和7年10月20日（月）午後1時30分からを予定しております。

それでは、本日の総合教育会議は終了となります。本日はありがとうございました。

【午後2時50分閉会】